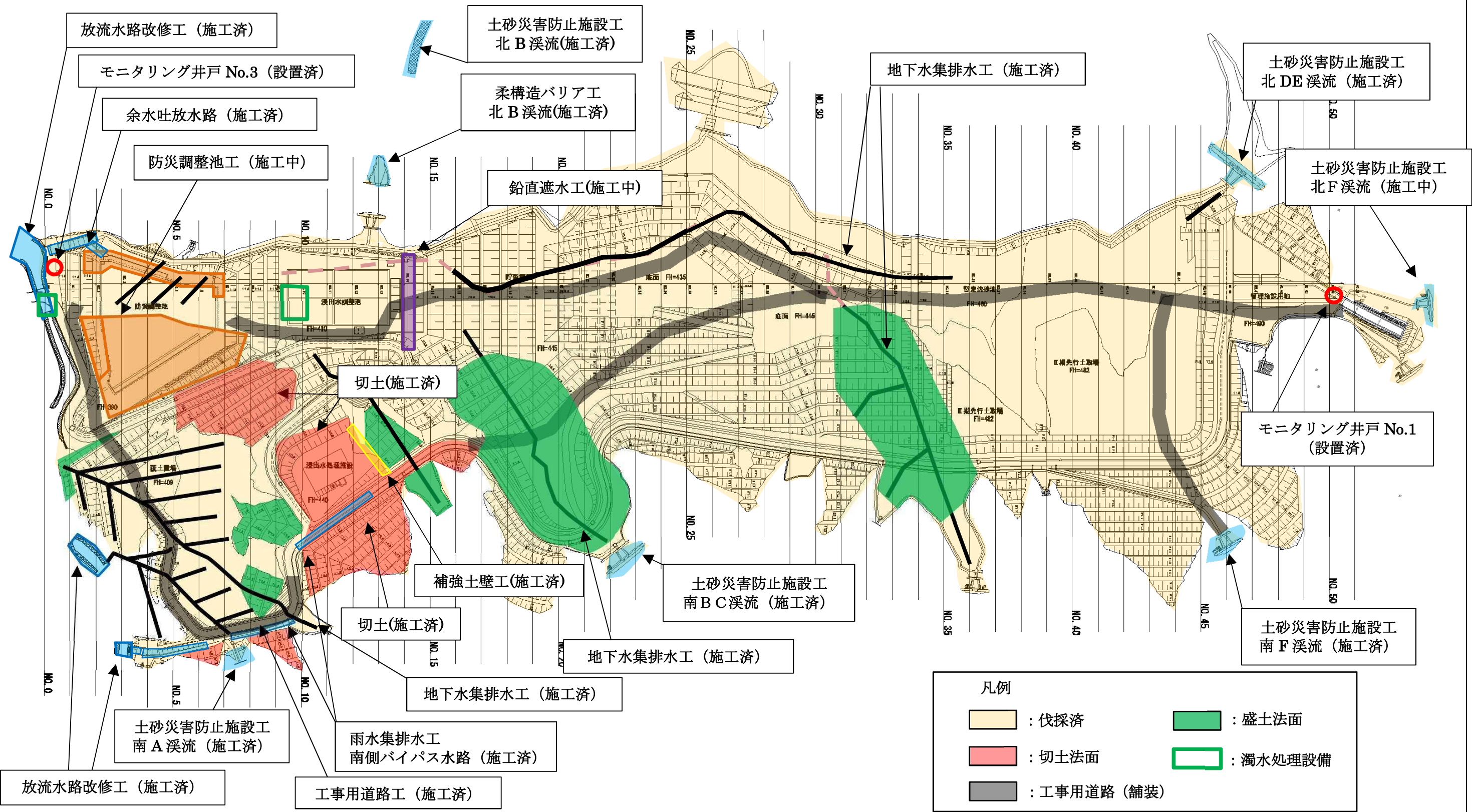


恵下埋立地（仮称）建設工事の施工状況について

作業状況

工事着手から現在まで以下の作業を実施しています。（平成 28 年 5 月～令和元年 6 月）

作業内容：準備工（工事用道路工）、仮設工（仮設沈砂池、濁水処理設備）、切盛土工、法面工、地下水集排水工、
雨水集排水工、放流水路改修工、防災調整池工、土砂災害防止施設工、モニタリング井戸工、鉛直遮水工、柔構造バリア工、補強土壁工



作業状況（平成28年5月～令和元年6月）

防災調整池工



①A・Bブロック



②C・Dブロック(足場組立)



③掘削

④余水吐放水路



雨水集排水工



⑤南側バイパス水路

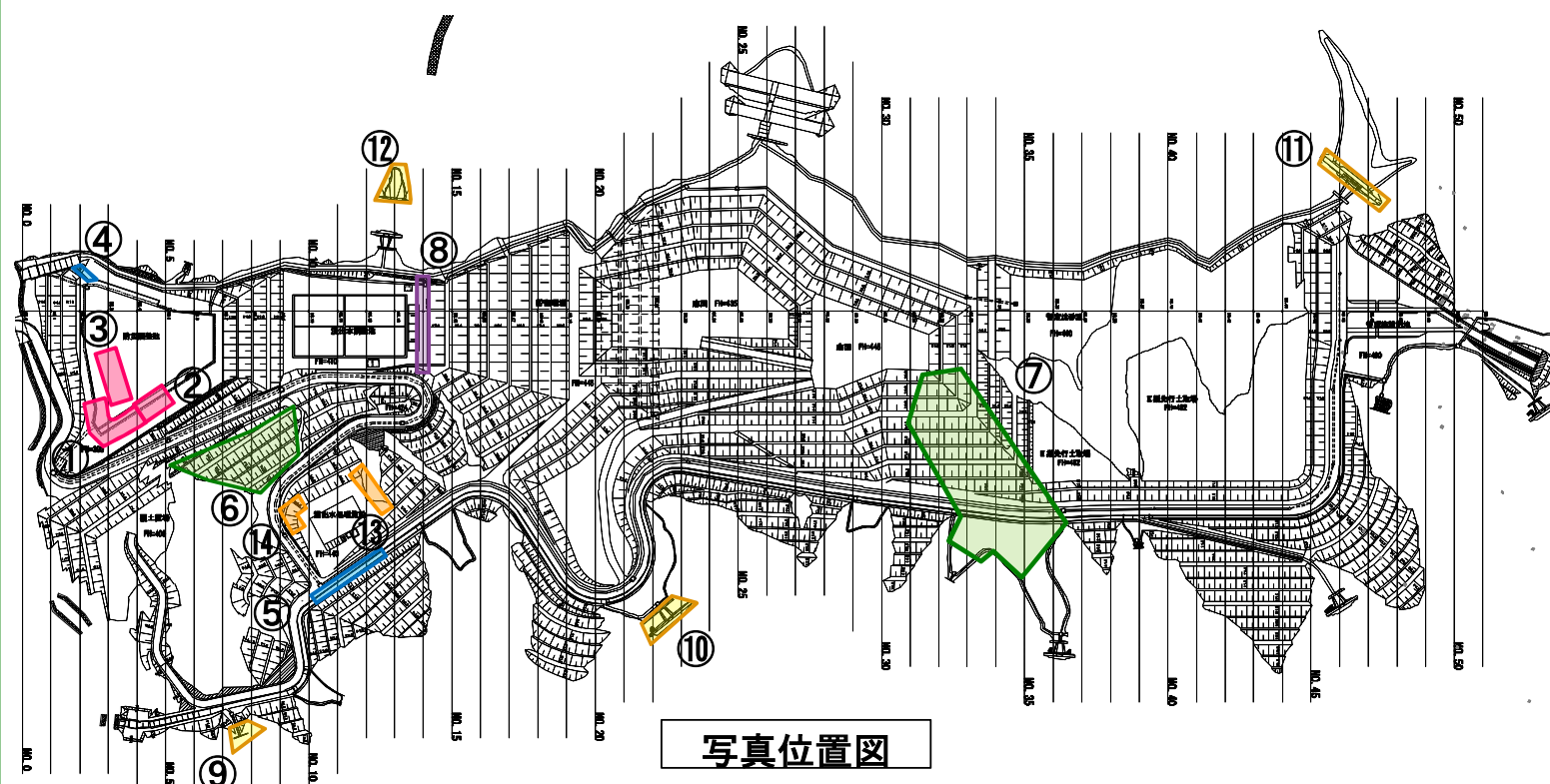
法面工



⑥植生基材吹付



⑦クリコート(仮設)

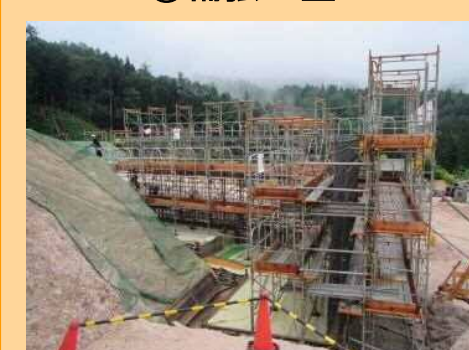


写真位置図

浸出水処理施設擁壁工



⑬補強土壁工



⑭現場打ちL型擁壁工

⑧法留擁壁工



土砂災害防止施設工



⑨南A溪流



⑩南BC溪流



⑪北DE溪流

柔構造バリア工



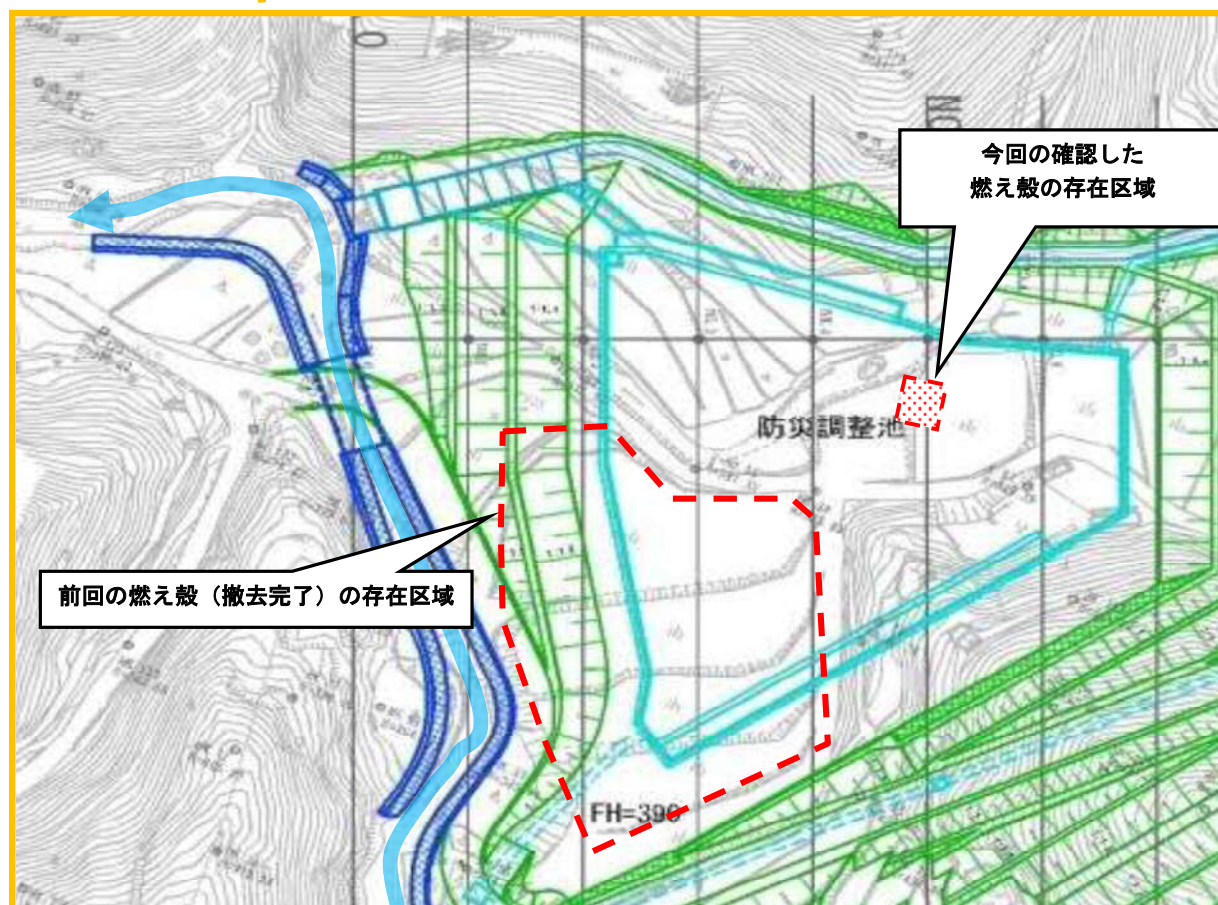
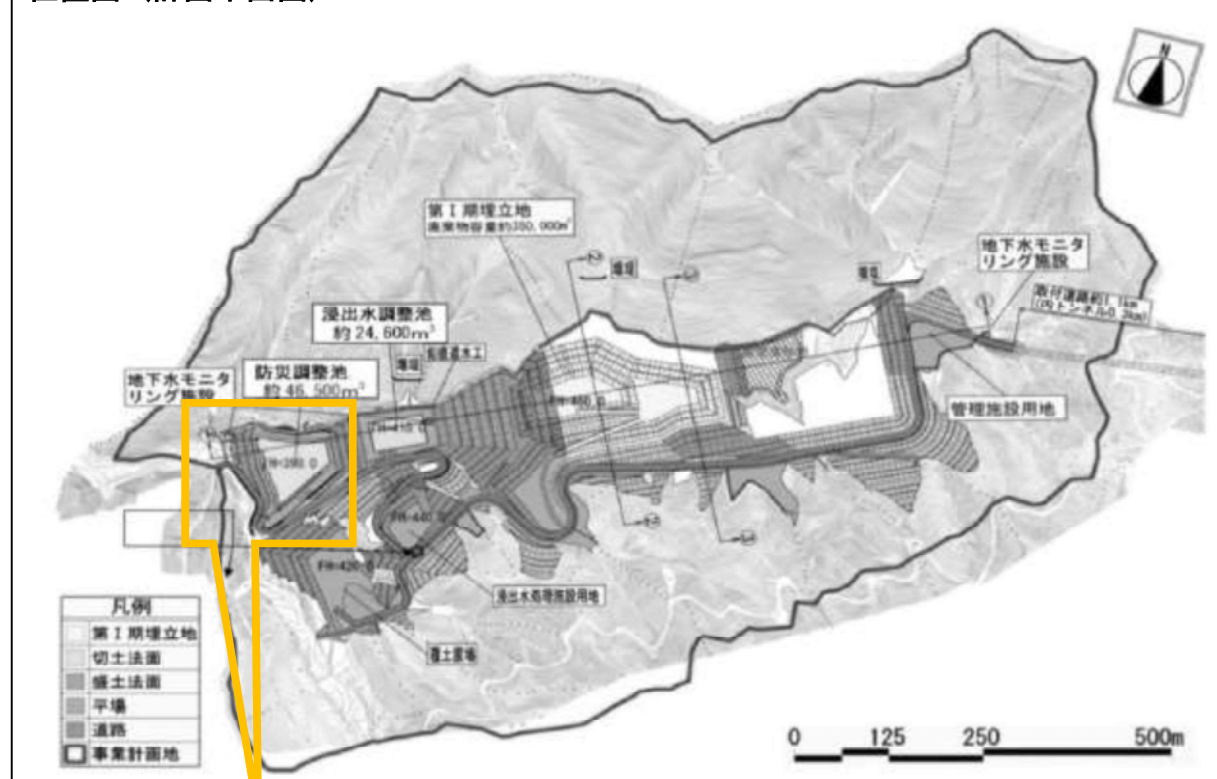
⑫北B溪流

【恵下埋立地（仮称）建設工事現場における新たな燃え殻の確認及び今後の対応について】

令和元年 5 月 27 日に、恵下埋立地（仮称）建設工事現場（防災調整池）において、防災調整池の区域内を掘削中に、新たに燃え殻を確認しました。

その状況と今後の対応については、以下のとおりです。

位置図（計画平面図）



<燃え殻の確認経緯>

令和元年 5 月 27 日、施工業者が、防災調整池内の工事用道路として使われていた場所への掘削を始めた際、燃え殻を確認した。

左図のとおり、本市職員が現地で燃え殻であることを確認した。

<確認した燃え殻の状況>

- ・ 範囲 約 90 ㎡（7.6m×11.8m）
- ・ 深 さ 約 1.5m～1.8m
- ・ 概ねの量 約 200 トン（約 150 ㎡）

<対応状況>

- ・ 燃え殻を確認した直後、当該箇所を直ちにブルーシートで養生し、飛散しないよう安全対策を講じている。なお、当該箇所以外の掘削工事は可能なため、工事工程への影響は出ない見通し。
- ・ 直ちにサンプリング調査を実施し、分析結果を踏まえ、廃棄物処理法に基づき適正に処分する。
- ・ 環境影響評価等に基づいて行っている水質調査を引き続き実施する。なお、これまでの水質調査では、基準値を超えるダイオキシン類は検出されていない。

（参考）前回の廃タイヤの燃え殻の処分状況

- ・ 発見時期 平成 28 年 8 月
- ・ 撤去期間 平成 29 年 10 月 ～ 平成 30 年 8 月
- ・ 範囲 約 3,300 ㎡（左下図 赤点線部分）
- ・ 深 さ 約 1.0m～3.3m
- ・ 撤去量 約 5,700 トン

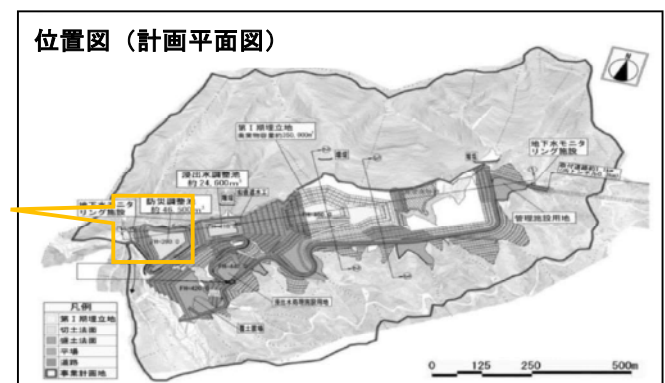
令和元年 6 月 18 日
環境局恵下埋立地建設事務所

恵下埋立地（仮称）建設工事現場における新たな燃え殻について

令和元年 5 月 27 日に、恵下埋立地（仮称）建設工事現場において、防災調整池の区域内を掘削中に新たに確認された燃え殻の件について、分析結果が判明したため、以下のとおり報告します。

1 燃え殻の状況

- (1) 範囲：約 90 m²（7.6m×11.8m）
- (2) 深さ：約 1.5m～1.8m
- (3) 概ねの量：約 200 トン（約 150 m³）



2 燃え殻の分析結果等

(1) 燃え殻の分析結果

ダイオキシン類について、管理型の最終処分場で埋立処分できる判定基準値以下であることが確認された。

また、鉛を含む有害物質（25 項目）の全ての項目について、検出されなかった。

有害物質の種類	分析の結果	判定基準値
ダイオキシン類	0.38 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g 以下

(2) 水質の調査結果

下流の河川や地下水の水質について、ダイオキシン類は環境基準値を下回った。

有害物質の種類	調査箇所	分析の結果	環境基準値
ダイオキシン類	河川	0.037 pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L 以下
	地下水	0.059 pg-TEQ/L	

3 今後の対応

燃え殻については、廃棄物処理法に基づき、管理型の最終処分場で適正に処理する。

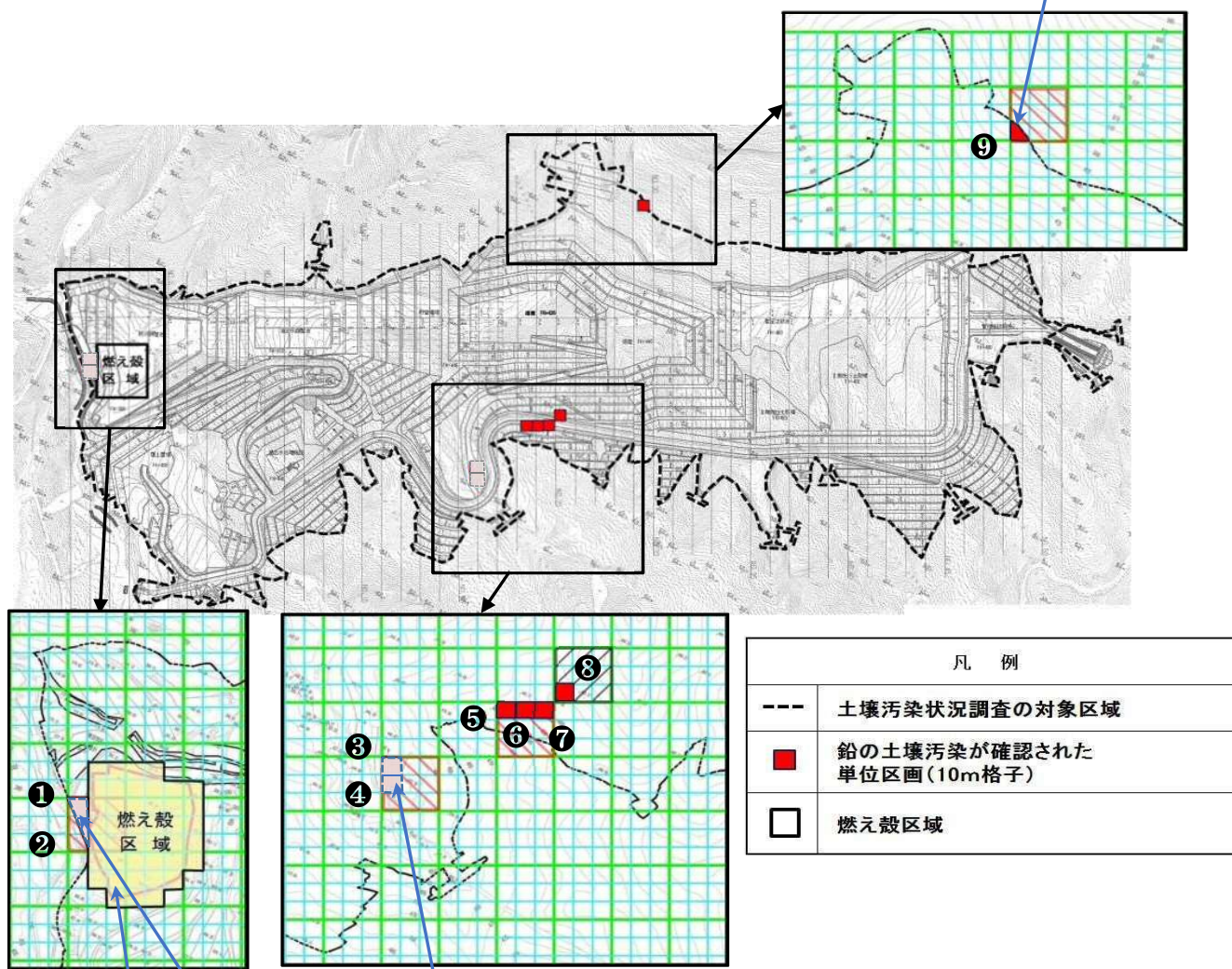
なお、燃え殻の処理によって、工事工程への影響は出ない見通し。

平成 31 年 3 月
環境局 施設部 恵下埋立地建設事務所

恵下埋立地(仮称)建設現場における汚染土壌への対応状況について

＜調査位置図（調査位置及び汚染の確認場所）＞

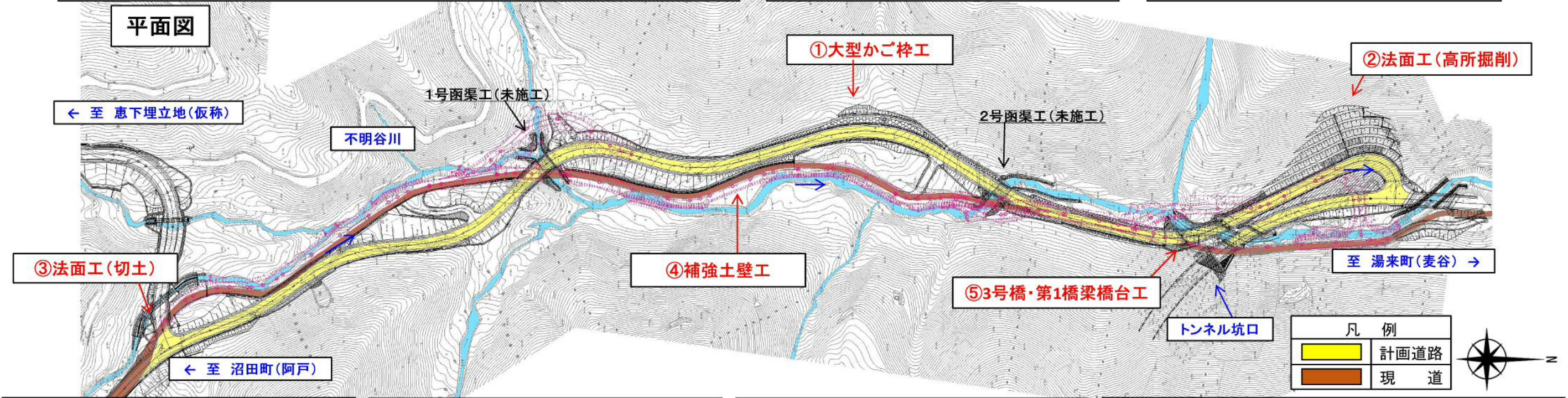
⑨の区画は、現在の工事区域外です。

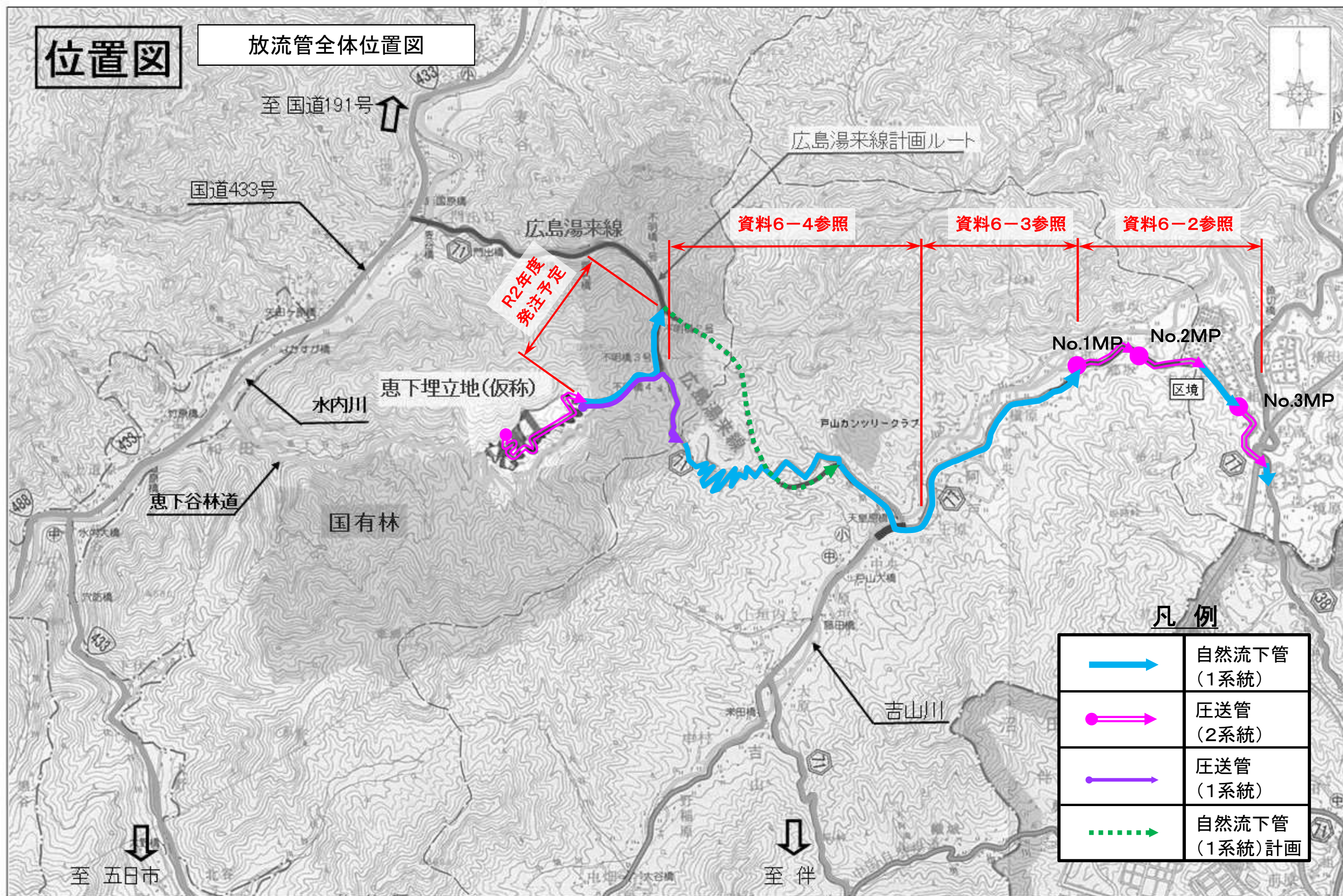


※①②③④の区画の土壌汚染の除去が完了しました。
(H30.12.21 付で、形質変更時要届出区域の指定の解除)

※燃え殻区域では、土壌汚染が確認されませんでした。
(H30.10.20 付で、形質変更時要届出区域の指定の解除)

工事着手から現在まで以下の作業を実施しています。（平成30年10月～令和元年7月）
着手工種：準備工（作業用道路工）、法面工（切土・高所掘削）、補強土壁工、大型かご枠工、橋台工

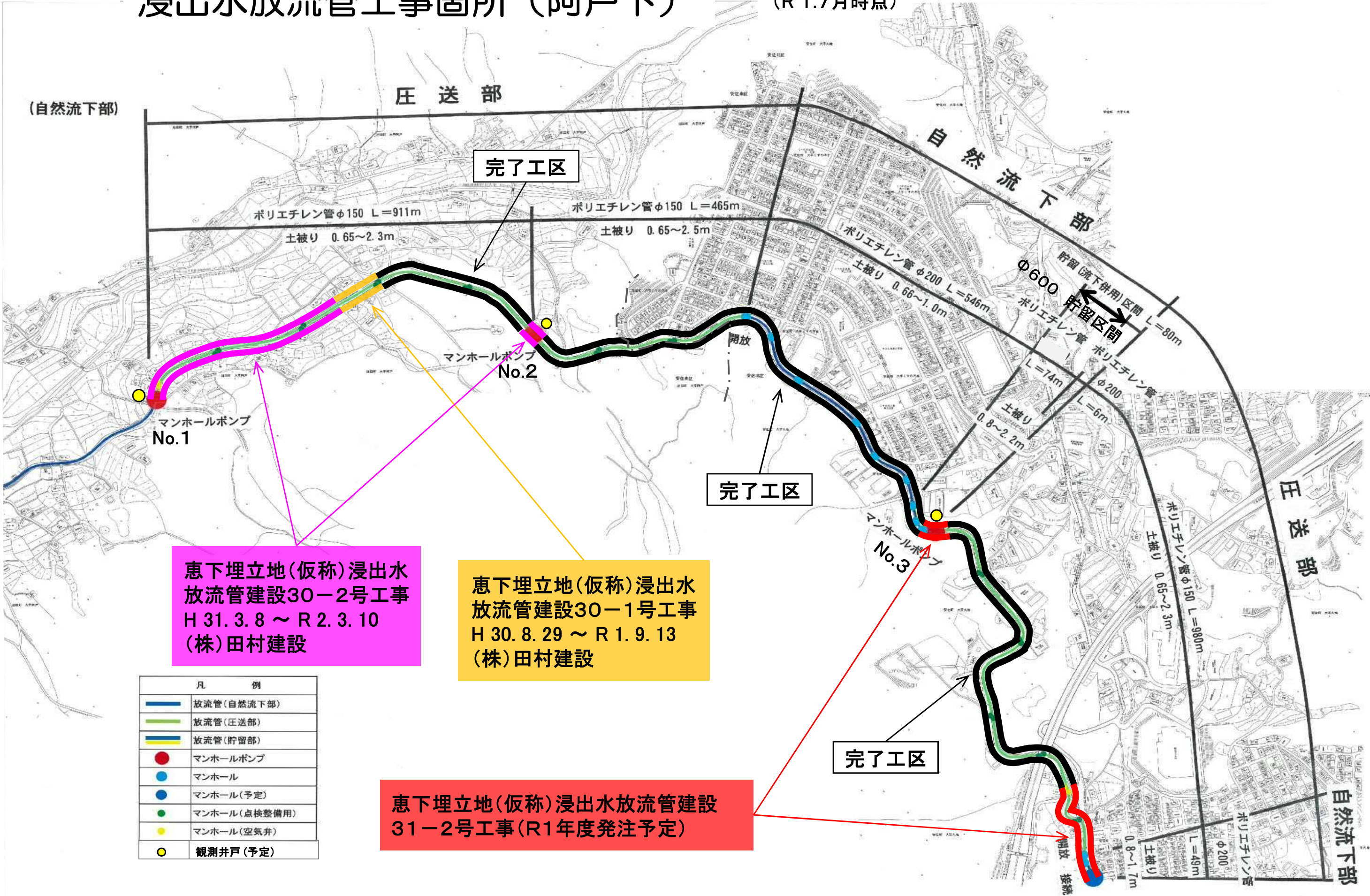




浸出水放流管工事箇所（阿戸下）

(R 1.7月時点)

【資料6-2】

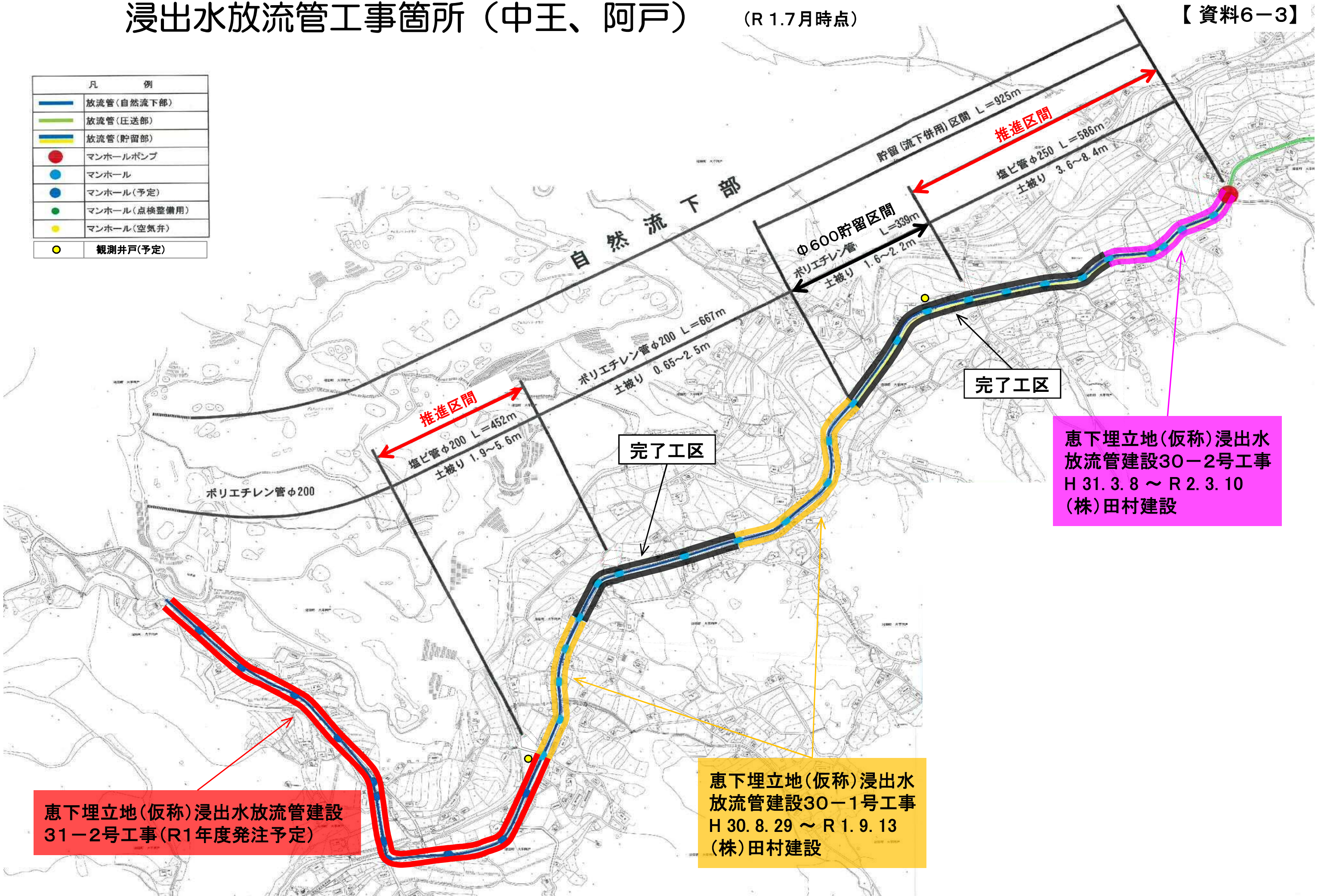


浸出水放流管工事箇所（中王、阿戸）

(R 1.7月時点)

【資料6-3】

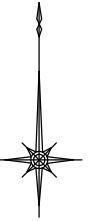
凡 例	
	放流管(自然流下部)
	放流管(圧送部)
	放流管(貯留部)
	マンホールポンプ
	マンホール
	マンホール(予定)
	マンホール(点検整備用)
	マンホール(空気弁)
	観測井戸(予定)



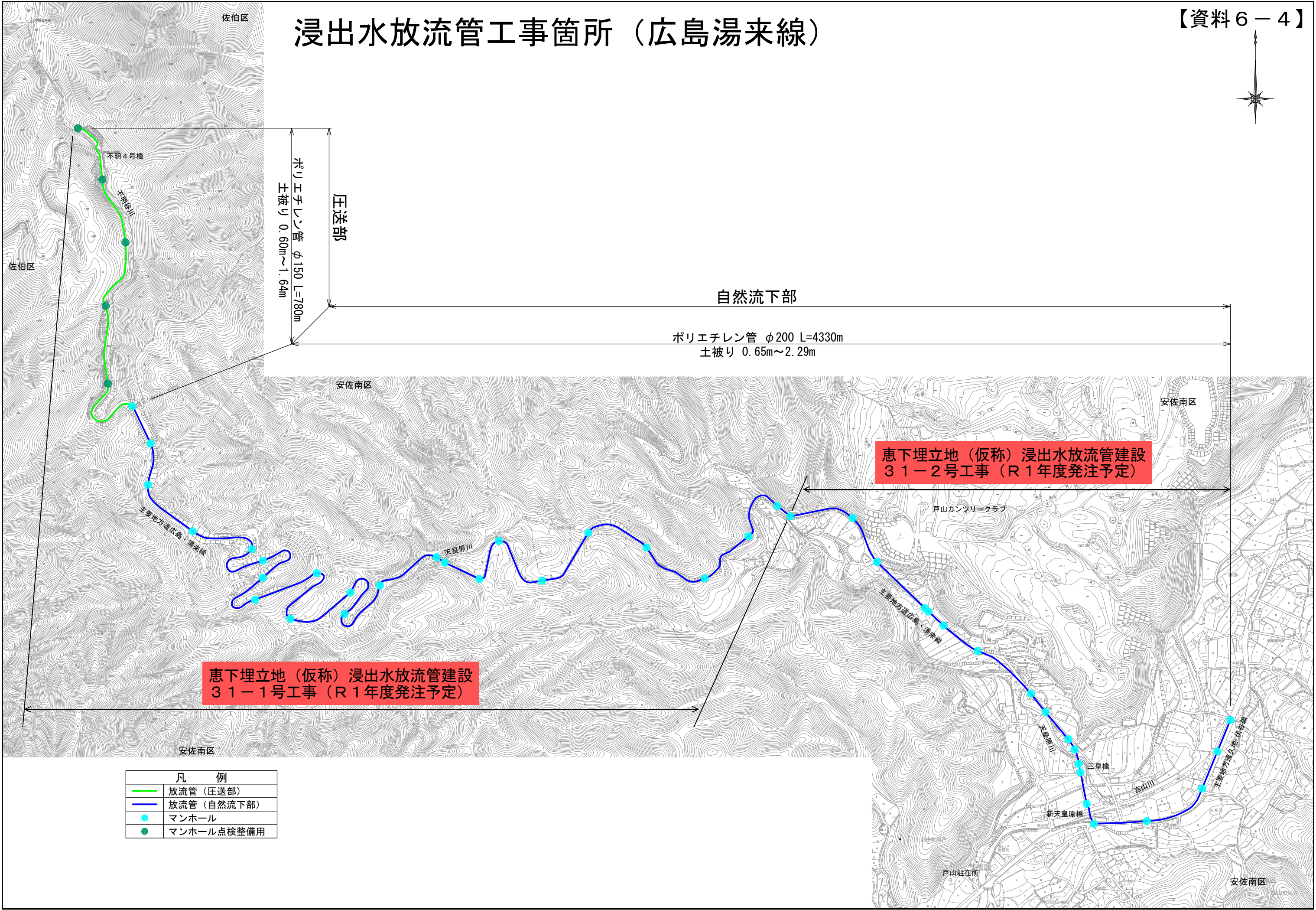
恵下埋立地(仮称)浸出水
放流管建設30-2号工事
H 31. 3. 8 ~ R 2. 3. 10
(株)田村建設

恵下埋立地(仮称)浸出水
放流管建設30-1号工事
H 30. 8. 29 ~ R 1. 9. 13
(株)田村建設

恵下埋立地(仮称)浸出水放流管建設
31-2号工事(R1年度発注予定)



浸出水放流管工事箇所（広島湯来線）



戸山地区の環境調査について（平成 30 年度調査結果）

【資料 7】

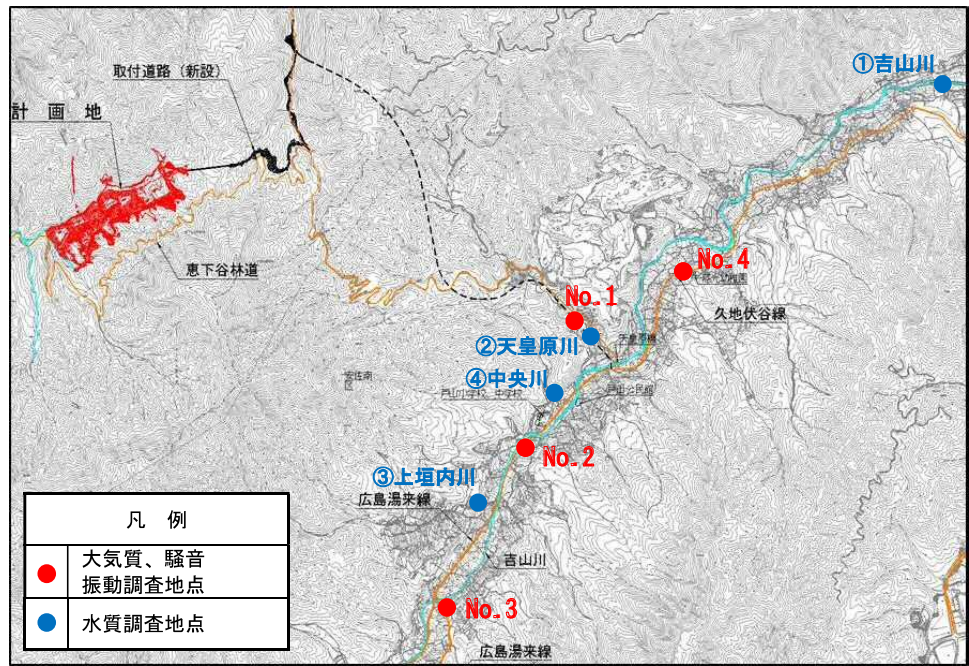
戸山地区の環境調査を、下表のとおり行いました。

水質調査結果で、大腸菌群数が基準値を超えましたが、その他の項目は基準値以下でした。

大気質及び騒音・振動調査の結果は、すべて基準値以下でした。

	調査項目	調査地点及び頻度
大気質	大気汚染に係る環境基準項目（5項目）	No. 1 1地点 7日間連続測定 1回/年 (調査日 H30.12.14～12.20)
	非メタン炭化水素	
	微小粒子状物質 (PM2.5)	
騒音振動	道路交通騒音	No. 1～No. 4 4地点 24時間連続測定 1回/年 (調査日 H31.1.29～1.30)
	道路交通振動	
水質	生活環境項目（5項目）	吉山川、天皇原川 上垣内川、中央川
	健康項目（27項目）	
	塩化物イオン	4地点 1回/年 (実施日 H30.10.18)
	電気伝導率	
	ダイオキシン類	

調査地点図



【大気質調査結果】

調 査 地 点		No. 1	環境基準
調 査 日		H30.12.14～12.20	
二酸化硫黄 (SO ₂) (ppm)	日平均の最大値	0.002	0.04以下
	1時間値の最大値	0.004	0.1以下
一酸化炭素 (CO) (ppm)	日平均の最大値	0.3	10以下
	8時間平均値の最大値	0.4	20以下
浮遊粒子状物質 (SPM) (mg/m ³)	日平均の最大値	0.015	0.10以下
	1時間値の最大値	0.026	0.20以下
二酸化窒素 (NO ₂) (ppm)	日平均の最大値	0.004	0.04～0.06以下
光化学オキシダント (O ₃) (ppm)	昼間の1時間最大値 (5時～20時)	0.046	0.06以下
非メタン炭化水素 (NMHC) (ppm)	3時間平均の最大値 (6時～9時)	0.07	0.20～0.31 (指針値)
微小粒子状物質 (PM _{2.5}) (μg/m ³)	日平均の最大値	11	35以下

【騒音調査結果】

時間区分	等価騒音レベル 調査日時：H31.1.29 12:00～1.30 12:00				環境基準 (単位：dB)
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	
昼 間 (6時～22時)	54	62	63	64	70
夜 間 (22時～6時)	41	54	54	55	65

注) 環境基準は「幹線交通を担う道路に近接する空間」の基準値である。

【振動調査結果】

時間区分	振動レベル (80%レンジの上端値：L ₁₀) 調査日時：H31.1.29 12:00～1.30 12:00				道路交通振動の限度 (第一種区域) (単位：dB)
	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	
昼 間 (7時～19時)	27	37	36	32	65
夜 間 (19時～7時)	25未満	27	26	25	60

注) 定量下限値は25dBである。

【水質調査結果】

項 目			地 点				① 吉山川	② 天皇原川	③ 上垣内川	④ 中央川	定量 下限値	環境基準値 河川A類型
観測項目	調査日		平成30年10月18日				—		—			
	調査時刻		10: 35	11: 10	12: 00	11: 40	—		—			
	天候		晴	晴	晴	晴	—		—			
	気温	(℃)	19. 2	19. 6	20. 0	20. 9	—		—			
	水温	(℃)	15. 7	15. 2	16. 8	15. 5	—		—			
生活環境項目	水素イオン濃度 (pH)		(—)	7. 3	7. 1	7. 1	7. 1	—	6. 5以上8. 5以下			
	生物学的酸素要求量(BOD)		(ng/ L)	ND	ND	ND	0. 5	0. 5	2以下			
	溶存酸素量 (DO)		(ng/ L)	9. 7	9. 6	9. 5	9. 8	0. 5	7. 5以上			
	浮遊物質量 (SS)		(ng/ L)	ND	ND	ND	4	1	25以下			
	大腸菌群数		(MPN 100ml)	2, 400	1, 300	1, 700	3, 300	1. 8	1, 000以下			
健康項目	カドミウム		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0003	0. 003以下			
	全シアン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 1	検出されないこと			
	鉛		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 001	0. 01以下			
	六価クロム		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 005	0. 05以下			
	砒素		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 001	0. 01以下			
	総水銀		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0005	0. 0005以下			
	アルキル水銀		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0005	検出されないこと			
	P C B		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0005	検出されないこと			
	ジクロロメタン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 02以下			
	四塩化炭素		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0002	0. 002以下			
	1, 2-ジクロロエタン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0004	0. 004以下			
	1, 1-ジクロロエチレン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 1以下			
	シス-1, 2-ジクロロエチレン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 004	0. 04以下			
	1, 1, 1-トリクロロエタン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0005	1以下			
	1, 1, 2-トリクロロエタン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0006	0. 006以下			
	トリクロロエチレン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 001	0. 01以下			
	テトラクロロエチレン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0005	0. 01以下			
	1, 3-ジクロロプロペン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0002	0. 002以下			
	チウラム		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0006	0. 006以下			
	シマジン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 0003	0. 003以下			
	チオベンカルブ		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 002	0. 02以下			
	ベンゼン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 001	0. 01以下			
	セレン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 001	0. 01以下			
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		(ng/ L)	0. 39	0. 16	0. 25	0. 06	0. 01	10以下			
	ふっ素		(ng/ L)	0. 10	0. 12	0. 14	ND	0. 08	0. 8以下			
	ほう素		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 01	1以下			
	1, 4-ジオキサン		(ng/ L)	ND	ND	ND	ND	0. 005	0. 05以下			
	塩化物イオン		(ng/ L)	3. 9	4. 1	3. 6	3. 1	0. 05	200以下 ※1			
	電気伝導率		(ns/ m)	6. 4	5. 1	5. 2	4. 2	—	30以下 ※2			
	ダイオキシン類		(pg- TEQ/ L)	0. 034	0. 028	0. 045	0. 12	—	1以下			

注) NDは、定量下限値未満 ※1 水道水質基準 ※2 農業用水基準

凡例

：基準値以下

：基準値を超過